

「お姉さんとの共依存生活」お姉さんが甘やかすお話

*（お姉さんとの出会いからおよそ一年間ほど経っていますので、
仲は良く主人公は私がいないとダメなんだという認識）

また、主人公は自己管理能力が低いため、お姉さんは必要以上に優しくします）

*基本的に正面ですが、

お姉さんが抱きつくシーンは少し距離を近めにお願いします

「おかえりー おつと、今日も疲れた顔をしてるね」

「今日はどうする？」

お風呂は沸いてるし、そろそろ帰つてくる頃だと思ったからご飯の支度も
もう終わるけど…」

「それともいつものようにギュッて抱きついてあげようか」

「全部？ふふつ、欲張りさんだね

いいよ、じゃあ先にお風呂に入つてきて
多分上がる頃にはごはんも用意できるから」

「食べ終わつたらたくさん甘やかしてあげる

さつ、持ち物とかは私が片付けておくから君は身体の疲れをとつておいで」

「今日は良い入浴剤を用意してあるんだ、

だからいつもより長めに湯に浸かつてくるといいよ

じやあね、ごゆつくりー」

「おつ、さっぱりしたねー どうだった？中々いい湯だつたでしょ毎日君のために

頑張ってるんだから、

その分今日もお姉さんにたーんと甘えてよね」

「でもその前に、まずはご飯からって…
わわっ、君から抱きついてくるなんて珍しいねっていうか
はじめてじゃないかな」

「うんうん、今日は一段と素直でお姉さんは嬉しいよ
よしよし、今日もこんなになるまで頑張って君は偉いよ」

「でももう少し待って、

甘えるのはお姉さんがエプロン外したり洗い物した後にね、
いい子だから大人しくしててね」

~~~~~

「はい、お待たせーちゃんと待っててくれたんだね  
そんなに甘やかしてほしかったの？」（嬉しそう）

「んん♪（可愛いものをみて悶えている感じ）

お姉さんも甘やかしたくてうずうずしてるんだから  
そんな物欲しそうな顔しないでよ」

「お姉さんが今すぐ君のことを受け止めてあげるから

ほーら！お姉さんの胸においで、いそっぽいなでなでしてあげる  
(おつ)つと、ふつもうつ、本当に子供みたいだよ？」

「よしよし、そんなにお姉さんが恋しかったんだ  
それなら期待に応えてあげないとね」

「でもその前にひとついい？帰ってきた時もそうだけど、

今日はどうしたの？今まで君から甘えてきたことなんてなかつたのに」

「いつもの君なら困った顔をして

仕方なくお姉さんに付き合つてくれてるところだよ」

「もしかして…相当辛いこと(間)あつたんじゃないの?」

「なんでもないって…そんな・・・

少なくともお姉さんはそんな風に見えないよ?

だって…今にも泣き出しそうな顔してる」

「こんなになるまで我慢するなんて、君はかなり無理をしてたみたいだね」

「たしか初めて君と会つた時もこんな感じだったよね

疲れて階段で倒れている君を見た時はさすがのお姉さんも肝が冷えたよ」

「もうあんなことがないようになると、頑張つてきたんだけど、中々難しいな」

「ああ、ごめん謝らないでいいよ気を遣わせるつもりじゃなかつたんだ  
お姉さんが勝手にお世話したいだけだから」

「言つたでしょ

なんでもないときでも、いつだって頼つてくれてもいいんだよって」

「だから今日くらいは遠慮なく甘えてよ?」

ふふっ、戸惑つた顔してる、じゃあこうしてあげる

ギュツ(発音あり)」

「ごめんね、君の辛さに気付けなくて

きっとお姉さんの愛が足りなかつたんだよね」

「よしよし、つて子ども扱いしすぎ?」

自分のことも大事にできないなんて子供みたいなものでしちゃう」

「全く、君はお姉さんがいないと本当にだめなんだから」

「ほーら、もう一回抱きしめてあげる

こうしておけば自然と気持ちも楽になるし満たされるよ

だから今だけは君もお姉さんに身を委ねよう?」

「うーん、大丈夫…じゃあないよね

それに身体が少し震えるけど、どうしたの?  
ん?ああ、そつかなるほど」

「(深呼吸) もう…大丈夫だよ 君は男の子だもんね、泣くのを我慢したくなるのもわかるよ」

「お姉さんは女人で、君はそのうえもう大人だ

ここで泣くのはたしかに恥ずかしいことかもしねない」

「でもね、辛いことがあったり、しんどかったりしたら泣いてもいいんだよ?

それが大人や子供でもあってもね?」

「ましてや性別なんて関係ないよ

だって、君はこんなになるまで普段から頑張っているんだから、  
その分辛いって気持ち以上に幸せにならないとダメだよ」

「君がそれで構わないと思つても、お姉さんは嫌なんだ  
だから…ね、今日はたーーくさん、お姉さんに甘えるんだぞ」

「何があったか教えてくれるの?」

「だっ大丈夫?言つてさらに辛くなつたりしたら大変だし、  
無理しなくともいいんだよ?」

「でも…もし君が、少しでも楽になりそうだつたら言える範囲で教えてほしいな  
そうしたらお姉さん、もつと君を甘やかしちゃうかもよ？」

「大丈夫、笑つたり責めたりなんて絶対しない  
ありきたりな台詞かもしれないけど、

お姉さんが今まで君の味方じやない事なんてあつた？」

「だから大丈夫、お姉さんがいつだつて君を守つてあげるから  
あつ、そのまま抱きついていいよその方が君も落ち着くでしょ？」

「よしよし、そのますつきりするまで泣いていいよ  
その間ずっと背中さすつてあげるから

落ち着くまで、ちょっとだけお姉さんの話をするね」

「これまでね、君に嫌われたくなくてある程度でどどまつていたの  
抱きつきたいけど、突き離されたらどうしようって不安になることもあつて」

「でもこれからは君が遠慮しても

お姉さんは自分のやりたいように君に優しくするから」

「よしよし、だいぶ落ち着いてきたみたいだね

うん、君が頑張つてることを他の人が知らなくともお姉さんは知つてる」

「それに、君がいるから私は毎日元氣でいられし笑顔になれる それってすごい  
ことだと思わない？」

「君は、そこにいるだけで私を幸せにできる

だから大丈夫、君を必要としてる人はここにいる」

「これが綺麗ごととか思つてくれて構わない

でも、お姉さんの想いだけはちゃんと伝わつてほしいな」

「うん、ありがとう

こんなお節介なお姉さんでごめんね」

「うん？ なにかな？ 何かしてほしいことがあるの？」

ふむふむ…添い寝をしてほしいと

そうだね、君も泣き疲れただろうし、そろそろベッドで横になろうか」

\* ここからは左か左どちらかでお願いします

(編集で反転させます)

「ふふっ、早速遠慮がなくなってきたね

ああ恥ずかしがらないでいいよ、お姉さんがそう望んだんだから」

「でも、君と一緒に寝るなんて初めてだからなんか新鮮  
それにさ、普段君から甘えてくることなんてないから、  
実はお姉さんかなりこの状況が嬉しかつたり」

「でも…やっぱりいつも通りの君がいいな だから今は、ゆっくり休もう」

「そうだねえ…こういう時は子守唄を歌つてあげるのがいいのかな  
君もそれで大丈夫？ 他にしてほしいこととかない？」

「わかったじゃあ身体をさすりながら歌うね」

【子守唄 歌詞】

ゆりかごのうたをカナリヤが歌うよねんね  
ねんね「ねんね」よ

ゆりかごのうえにびわの実が揺れるよねんね  
こねんね「ねんね」よ

ゆりかごのつなを木ねずみが揺するよねんね  
こねんね「ねんね」よ

ゆりかごのゆめに黄色い月がかかるよねんね  
ねんね「ねんね」よ

「まだ少し辛そうな顔してるな

そうだ、君が寝付くまで手を握つててあげる

大丈夫、朝までずっと一緒にいるから安心して寝てていいよ」

「起きたらきっと良いことがあるからだから大丈夫

また明日ね、おやすみ」